

ブロック：日本海ブロック

1. クロダイ・日本海北中部

海域	日本海北・中部 (青森、秋田、富山～京都、鳥取、島根)	参加機関	水産資源研究所底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	-----------------------------	------	--

(1) 調査の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源研は生物情報の収集、農林統計値の整理、各県漁獲情報の集約を実施。 ・各県は漁獲統計の収集を実施。
--

(2) データ収集状況

<ul style="list-style-type: none"> ・青森県では主要21港の2007年以降の漁法別漁獲量と2019年の月別漁獲量を収集済み。 ・秋田県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・新潟県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2018年以前は精査中。 ・富山県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・石川県では主要10港の2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・福井県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・京都府では1990年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・鳥取県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2018年以前は精査中。 ・島根県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み (*1)。 ・水産資源研は、農林統計値を整理するとともに、山形県と兵庫県では1トン前後の漁獲があり、統計もあることを確認。 <p>*1 類似種 (キチヌ、ヘダイ等) を含む。</p>
--

(3) 生物学的特性

<ol style="list-style-type: none"> (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。 (2) 年齢・成長：文献があることを確認し、さらに情報収集中。 (3) 成熟・産卵：文献があることを確認し、さらに情報収集中。 (4) 被捕食関係：文献から分布情報を収集済み。
--

(4) 備考

<ul style="list-style-type: none"> ・クロダイのみの集計ではないことがあり、精査必要。 ・日本海全府県で統計値があったものの、年間の漁獲量が1トン未満の県も多く、モニタ

リング体制について、データ蓄積をしながら再検討が必要。
 ・石川県で放流実績がある。

2. クロソイ・日本海北部（青森～石川）

海域	日本海北部（青森～石川）	参加機関	水産資源研究所底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター
----	--------------	------	--

(1) 調査の概要

・水産資源研は生物情報の収集と各県漁獲情報の集約を実施。
 ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

・青森県では主要21港の2007年以降の漁法別漁獲量と2019年の月別漁獲量を集計済み（*1）。

・秋田県では2019年の漁法別漁獲量を収集済み。それ以前の統計、精査中。

・山形県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。

・新潟県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2018年以前は精査中。

・富山県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。

・石川県では主要10港の2014年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。

・水産資源研は、福井県～鳥取県では漁獲量1トン未満あるいは統計なしであること、島根県では数トンの漁獲がありムラソイと混在する統計があることを確認。

*1 キツネメバルやタヌキメバルを含む。

(3) 生物学的特性

(1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
 (2) 年齢・成長：文献があることを確認し、さらに情報収集中。
 (3) 成熟・産卵：文献があることを確認し、さらに情報収集中。
 (4) 被捕食関係：文献から分布情報を収集済み。

(4) 備考

・青森県はじめ各地で、クロソイのみの集計ではない可能性が高い。
 ・秋田県では種苗放流実績がある。

3. モロトゲアカエビ・日本海北中部（青森～石川）

海域	日本海北中部（青森～石川）	参加機関	水産資源研究所底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター
----	---------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において、資源量調査（日本海北部底魚資源調査）と標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では2007年以降のかご漁漁獲量と2019年の月別漁獲量を集計済み（*1）。
 - ・秋田県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*2）。
 - ・新潟県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*3）。
 - ・富山県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では主要10港の2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では日本海北部における資源量調査を2016年以降実施。採集数が少ないことを考慮し、精査中。また、福井県～島根県では漁獲量が1トン未満もしくはその統計がないことを確認。
- *1 主要2港のみで漁獲実績あり。実際の漁獲物による種同定が再度必要と推察。
- *2 統計上はしまえび（トヤマエビ）の一部であり精査必要。
- *3 本種を区別した集計がある漁協は一部のみ。実際より明らかに過少。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・漁業現場で区別されている地域でも集計では他種と合算されている可能性がある。
- ・各地、漁獲量は極めて少なく、モニタリング体制について、再検討が必要。
- ・日本海北部による資源量調査および標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。
- ・日本海西部で実施している資源量調査と比較し、本海域との分布の連続性を検討することも重要。

4. キアンコウ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産資源研究所底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集と各県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。標本船

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要21港の2005年以降の漁法別漁獲量と2019年の月別漁獲量を集計済み。
 - ・秋田県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。それ以前の統計、精査中。
 - ・山形県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2018年以前は精査中。
 - ・富山県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・石川県では主要10港の2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。2015年～2018年は精査中。
 - ・京都府では1990年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・兵庫県では1981年以降の月別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・鳥取県では1997年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・島根県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
- *1 アンコウが含まれる可能性がある。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献があることを確認し、さらに情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献があることを確認し、さらに情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から分布情報を収集済み。

(4) 備考

- ・日本海西部においてキアンコウとアンコウが混在すると推察される。
- ・福井県をはじめ一部関係県では、知見（小林・河野 2006、遠藤 2018）を参考に、キアンコウとアンコウの割合に関する調査を、適宜、試験的に開始。